

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300578		
法人名	社会福祉法人 関記念 柘の木会		
事業所名	認知症老人グループホームうらら		
所在地	下都賀郡壬生町北小林812-1		
自己評価作成日	令和4年12月23日	評価結果市町村受理日	令和5年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和5年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は静かで緑豊かな環境にあり、同法人の特別養護老人ホーム・老人保健施設が隣接し、特別養護老人ホームとは行事・避難訓練で交流し緊急時にも協力が得られる連携を図っています。「個々の尊厳、人格を尊重し、その人らしい生き方を支援する」という理念を全職員が理解し、トータルな接遇を身につけ笑顔あふれる明るい施設です。ご利用者が穏やかで安心した生活を送る事が出来るよう、傾聴・寄り添い・敬う心を大切にしております。コロナ禍の為、面会や外出の制限をさせていただいておりますが、庭内での活動・事業所内で出来る楽しみ、特に要望にそったお食事を多く取り入れ、喜びを共有しております。職員は毎日3回の検温・こまめな消毒・換気・マスクの着用等、感染症予防対策の意識を緩める事なく、責任ある行動に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は大学病院が近くにあり雑木林が広がり緑豊かで静かな環境にある。同法人には特別養護老人ホームや老人保健施設が隣接している。特別養護老人ホームとは行事・避難訓練で交流し緊急時にも協力が得られ連携が図られている。事業所理念を「個々の尊厳、人格を尊重し、その人らしい生き方を支援する」掲げており、職員は接遇委員会が毎月設定する目標と共に念頭に置き、笑顔で優しい声掛けを心がけて利用者の思いや意向を汲み取り、穏やかで安心した生活ができるよう日々寄り添った支援に努めている。コロナ禍の為、面会や外出の制限はあるが、敷地内の散歩やドライブに行つて気分転換を図っている。食事は職員が3食手作りで提供しており、行事食やお祝いの食事也希望に応じて手作りしたり、テイクアウトをして楽しみなものとなっている。職員はコロナ感染予防対策を徹底し、コロナ感染者を出さないよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所の各基本理念、接遇委員会が毎月設定する目標、介護マニュアルを毎日朝礼時に唱和して意識づけをし、職員全体で共有・振り返りながら実践に繋げている。	法人理念の他に事業所の理念を職員の意見を聞いて作成されている「住み慣れた地域と家庭的な雰囲気の中で、個々の尊厳、人格を尊重し、その人らしい生き方を支援していきます。感謝の心を忘れずにいつも笑顔で暮らしましょう。」を毎日唱和して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて感染予防対策を継続しています。地域の神社やお寺のお祭りでの交流、中学生や各種ボランティアの交流も図れない状況である。	地域の小林神社やお寺のお祭りで招待され食事を頂いたり、中学生の福祉体験を受け入れていたが現在は自粛している。また傾聴や書道、掃除等のボランティアの交流も自粛している。	コロナの感染予防対策を継続し、以前できていたことを、状況を見ながら、地域との交流が行われることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業者の見学・ボランティアの方々・中学生の福祉体験・運営推進会議等で取り組んでいたが交流を図れない状況なので消極的な現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以降は書面開催となっている。民生委員・地域包括支援センター職員・役場担当者・ご家族代表を構成とするメンバーは変わらず、ご利用者状況・行事等を報告し意見や要望をいただきサービスに活かしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に行っていたが、今は書面開催となっている。利用者の状況や消防訓練、ヒヤリハット、行事等の報告とうらら通信を送付している。また、返信用用紙と封筒を入れて意見や要望を貰いサービス向上に活かしている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催の相談や確認、介護保険に関する件、ご家族より転居の相談等、随時電話連絡により助言をいただき、協力関係を築くよう取り組んでいる。	町の担当者には運営推進会議のメンバーになってもらい、運営推進会議開催の相談や確認、介護保険の更新申請についての連携が行われている。また、利用者の転居届の相談等随時伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で正しく理解し、接遇改善委員会の取り組みにより、ご利用者の習慣・気持ちを尊重し、不穏の方へは傾聴・一緒に歩きながら寄り添いに努め、言葉による拘束を含め身体拘束を行わないケアを実践している。	接遇改善委員会が中心となって身体拘束マニュアルを基に内部研修を行っている。職員は言葉による拘束を含めて正しく理解するよう毎日唱和して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて心のコントロールを訓練し丁寧な言葉を遣うこと、一呼吸おき敬う心を大切にすることを学び、虐待は絶対あってはならない事を認識し支援が適切か注意し合える職場環境である。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて知識習得に努めている。必要と考えられるご利用者やご家族と話し合い、支援が出来るよう関係者と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、契約書・重要事項説明書で確認しながら丁寧に説明している。料金改定時は都度、文章または口頭で説明し同意をいただいている。退居については理由を明確にして理解を図り、不安のないよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者アンケートによる聞き取りや普段の会話の中で、気軽に意見や要望が表せるようコミュニケーションを大切にしている。ご家族へは毎月「うらら通信」と、ご利用者の生活状況をお知らせする「うらら便り」を送っている。コロナ禍の為、書面での家族懇談会を開催し意見を聞く機会を設け、来棟の際にも話しやすい環境作りに努めている。コロナウイルス感染症予防対策にご理解・ご協力を得て、その範囲内で運営に反映している。	利用者には食事内容や入浴、行きたい場所、職員の態度等についてアンケートを取って意見や要望を聞き取り、家族等にも報告している。家族集会もコロナ禍以前は開催していたが、今は書面で行い意見を聞く機会を設けている。また来所時にも話を聞いて、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面接の他、随時意見を聞く機会を設け話しやすい環境作りに努めている。家族や子供の行事に配慮した勤務体制や、業務改善等職員の提案や気づき等、可能な限り検討し運営に反映させている。	管理者は年2回の職員面接のほか、随時意見や要望を聞いている。勤務体制や業務改善等、職員の意見や要望を検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状態・努力・実績等を把握し、業務管理シートの提出・各自面接を行い、給与・賞与に反映している。各委員会活動・行事企画運営・居室担当を持ち、成果を認める声かけを忘れずコミュニケーションを図るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には新任者研修新人用マニュアルに沿って力量を把握しながら進めている。外部研修は段階に応じて受講出来るよう配慮し、eラーニングの研修も行っている。法人内の研修は全員参加が出来るよう整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の総会や研修会での交流は控えたが、同業者の研修受け入れの中での交流を再開した。感染症予防対策につき取り組みは足りなかった。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が生活していく中で困っている事、不安に思っている事など伺いながら、安心した生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に不安に思っている事や要望を伺い、どのような支援方法が望ましいかを考え、ご家族に寄り添いながら話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご利用者と話をしながら最優先に必要な支援は何かを考え、見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	集団生活において、ご利用者一人ひとりに寄り添い、その人の望む暮らしが送れることを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、うらら通信・うらら便りにてご利用者の状態報告を行っている。面会は窓越しのみだが、元気な姿を見てご家族も安心されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防対策で外出の自粛をお願いしている為、馴染みの美容室へ行ったり知人にお会いする事に積極的な支援が出来なかった。電話や手紙で関係継続に努めた。	コロナ禍の感染予防対策の為、馴染みの場所や外出もできていないが、家族へ電話をかけて話したり年賀はがきを書いたり、友人や親類に手紙のやりとりを支援して関係継続に努めている。理美容は業者が事業所に訪問して対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりに目配りをしてお互い助け合い、寄り添いを大切に関係が保て穏やかに過ごせるよう席や居場所の配慮を行い、職員が関係を支えられるよう努めている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の暮らし方の継続性に繋がるよう今までの支援に対しての工夫等、情報を伝えている。又、今後も相談に応じる姿勢を示している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者がどんな暮らしを望んでいるのかを伺い、施設内で可能な事は実施している。困難な事については少しでもご利用者の思いに寄り添った支援を心がけている。	一人ひとりがどんな暮らしを望んでいるのかアンケートを取ったり、日頃の支援の中で思いや意向の把握に努めている。意思表示が困難な人には、話しかけを多くして気持ちが分かるように働きかけて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの人や場所、どのようなサービスを利用していたか等の生活歴を伺い把握し、入居後も今迄の暮らし方に近い生活を送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の流れを知りながら、出来る事・わかる力・心身状態に繋がる安定は何かを全職員で共有し、把握に努めている。又、日々の暮らしの中で発見があった際は、チームで確認合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族に意向を伺い、モニタリングを3ヶ月に1回実施。又、半年毎に見直し担当者会議を行い、一人ひとりの現状に即した介護計画を作成している。	利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、家族等の意見を聞いて介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを行い、毎月サービス担当者会議を行って現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践記録に合わせ、普段と異なった発言や行動・気づき等は、具体的に記録に残し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の要望に添えるよう、出来る限りの支援に努めている。多様化しているニーズにも、新しい感覚で対応出来るよう進めている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと協働している。外出は自粛中の為、地域の理容店に訪問していただき利用している。病院・銀行・郵便局・役場・携帯ショップ等へは、必要に応じて出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を主治医として、受診はご家族対応を基本としている。状態変化時は主治医への報告書を作成し渡している。受診後は主治医より直接アドバイスを聞き取り、情報の共有に努め支援に繋げている。	かかりつけ医受診は家族の協力で対応している。受診の際、家族に利用者の状態が記入された用紙を持参し、受診後は医師よりアドバイスを受けている。同法人施設の看護師の協力体制がある。歯科は法人の歯科医に往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在同法人施設の看護師に週に1度、ご利用者の注射を依頼し実施していただいている。又、インフルエンザ予防接種・コロナワクチン接種の際や、随時体調に不安がある時は相談し健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院後の状態をご家族へ伺ったり直接病院と連絡を取り合い、今後の治療方針・今の状態確認を行い情報交換している。病院・ご家族と退院計画を話し合いながら、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化終末期に向けた話しは説明し、段階ごとに意向を確認しながら事業所で出来る事・出来ない事を再度説明し、方針を共有している。特養とも連携を図りチームで支援に取り組んでいる。	現在、看取り対応はしていない。入居時に重度化した場合や終末期のあり方について説明している。段階ごとに家族等の意向を確認しながら、出来る事と出来ない事を話し合い、法人内施設の住み替えの相談にも対応している。急変時の対応はマニュアルに沿って行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、急変時や事故発生時に適切な行動が取れるよう研修等で技術を習得し、いざという場面で活かせるようシミュレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを基に内部研修として災害研修を実施。独自の避難訓練も実施している。地域の消防団へはいつでも連携がとれる体制を整えている。又、年間計画に基づく隣接施設との合同避難訓練を実施。緊急連絡網による電話連絡の訓練実施。カンファレンスを行い改善・修正に努めている。	防災マニュアルを基に研修が行われている。年3回特養と合同で避難訓練を実施し、うち1回は消防署に通報訓練している。日中、夜間を想定して訓練し緊急連絡網の電話連絡訓練も行っている。また地震や水害訓練も実施し、地域の消防団と一緒にやっている。災害時の備蓄の用意もされている。	

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の朝礼にて接遇マニュアルを唱和し、意識向上に努めている。ご利用者は苗字に「さん」付で呼ぶ事を基本にしている。入室時や入浴・トイレ案内時等の声掛けに羞恥心やプライバシーに配慮した対応をしている。	接遇マニュアル「救う心・やさしい心」の冊子を職員は持参し、毎日唱和して意識づけしている。利用者を「さん」付で呼ぶ事を基本にしている。入室時は声掛けやノックしている。トイレ介助や入浴時等の声掛け誘導にはプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人ひとりのコミュニケーション能力をさぐりながら、本人の希望や意向を聞き出せるような雰囲気作りに努め、言葉掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や意向を尊重し、一人ひとりのペースを大切にしながら、希望に添った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍の為、思うような外出が出来ない状況ではあるが、日常生活にて毎日の化粧や服選び等、ご利用者と一緒に関わり声掛け支援している。理美容についても好きな髪型に整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事等で食べたい物・好きな物を伺い、お楽しみメニューやテイクアウトで提供している。又、おやつにはおはぎやどら焼きなどを一緒に作っている。目で楽しむ事が出来るよう盛り付けなどにも工夫している。食器拭きの片付けをする事が日課になっていて、楽しみに繋がっている。	食材は業者から仕入れて職員が3食調理して提供している。水曜日はパンの日としており、誕生日や行事等はお楽しみメニューで提供したり、入居者の希望する弁当・寿司等をテイクアウトでの提供をしている。また、松花堂弁当箱を使って盛り付けしたり、おやつもおはぎやどら焼きなどを一緒に作るなど、職員は利用者が楽しめる様支援をし、見守りながら、距離を保ち一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、職員全員が把握出来るようにしている。一人ひとりの食事量や食事形態に合わせ、バランスよく摂取していただき、栄養の偏りや水分不足にならないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし介助が必要な方には、ブラッシングの支援をしている。又、就寝時に義歯洗浄し清潔保持に努めている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方はご自分のペースで行っている。介助が必要な方は時間や行動パターンを把握し、トイレの声かけ・案内を行っている。声掛け時や排泄中もプライバシーに配慮し、対応にあっている。夜間ポータブルトイレ使用の方に対しては臭い等注意しながら、気持ちよく使用していただけるよう対応している。	一人ひとりの自立度や排泄のパターンを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。夜間のみポータブル使用している方もいるがほとんどの方はトイレでの排泄をしている。夜間の転倒回避のため、足元にセンサーを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り主治医と連携を取りながら、便秘薬で調整して改善に努めている。毎朝のヨーグルト・牛乳も摂取している。その他にも棟内歩行や体操等行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりご利用者のペース・タイミングに合わせて、入浴中は会話を楽しみながらリラックスした雰囲気を入浴していただけるよう努めている。拒否のある方は無理せず、担当者や時間を変える等の工夫をしている。	週3回、1対1で入浴支援をしている。個々のペースに合わせて対応し、リラックスできるような会話をしながら入浴を楽しんでもらっている。入浴拒否の方には無理強いせず、タイミングを見て声掛けや担当者を変えたりと対応している。季節ごとのゆず湯や菖蒲湯の提供が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活スタイルに合わせて休息は取れている。気持ち良く眠れるよう日中は体を動かしたり、声を出したりと活動する事で安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬説明書をファイルし、いつでも確認・把握できるようにしている。症状の変化があった時は主治医に指示を仰ぎ、迅速に対応している。又、飲み忘れや誤薬を防ぐため複数の職員で都度確認する等の対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日家事手伝いを無理のない範囲で行っていたり、役割を持って生活を送っていただいている。又、季節毎の食べ物や飾りをして季節を感じ楽しんでいただけるよう工夫し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止の為、外出の制限があり希望に添うことは出来なかったが、天気の良い日に庭内散策をしたり、ドライブに出掛け車窓からのお花見やイチヨウ並木見物を楽しんだ。庭でお茶会やレクリエーション・花植えや野菜の収穫等、屋外活動の支援に努めた。	コロナウイルス感染予防対策で敷地内の外出となっている。敷地内は広く散策したり、観音様に水や花を供えるなどしている。また、庭でお茶会やレクリエーションを楽しんだり、花壇に花植え、夏野菜の収穫など屋外に出れるよう支援している。人込みを避けながらドライブに出かけて車窓からお花見・銀杏並木を見て楽しんでいる。	

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてお預かりしており、行事や外出の際、ヘアカット等、必要な物や欲しい物があつた時に使用している。ご利用者はお金を預けている事に安心している。ご家族には4か月毎に預り金管理状況を報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望がある時、ご家族から電話があつた時などにお話できるよう支援している。又、携帯電話を持っている方は自由に連絡を取り合っている。友人との手紙のやり取りも含め年賀状は全員の方が家族宛に送れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者一人ひとりが安全・安心した生活が送れるよう整理整頓を行い、季節の創作物をご利用者と一緒につけて飾り、季節を感じられるよう工夫している。又、不快な臭いが漂わないよう配慮し、温度・湿度調整を行い快適に過ごせるようにしている。	共用空間は温度や湿度管理を職員が行い、不快な臭いが漂わないよう清掃をしている。ユニットごとに椅子の色を変えてある。季節を感じられるよう季節の創作物を利用者と一緒につけて飾っている。一人ひとりが安心して生活できるよう気の合う方を一緒にテーブルに座ってもらうなど、快適に過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間において、ご利用者全員が同じ事をしなくても各自読書やテレビを観たり、自室でゆっくり過ごしたりと思ひ思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の使い慣れたテーブル・椅子・寝具・テレビ等を持ち込んでいる。ご家族の写真や、職員が送ったカード等を居室に配置したり、カレンダーに書き込めるように工夫し、安心に繋げている。	翠棟のユニットは居室に畳が設置され、他のユニットはフローリングになっている。洗面台・エアコン・押入れ・タンス・ベッドは備え付けである。寝具やテレビ、冷蔵庫(職員が時折チェックしている)、仏壇、位牌等を持ち込んでいる。写真や職員の送ったカードを飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器拭き・テーブル拭き・洗濯たたみ等が出来る方には、積極的にに行えるよう声掛けをしている。杖歩行の方の妨げにならないよう、廊下には物を置かない等の配慮し、視界が悪くならないよう照明に留意し、安全な環境作りを努めている。		